

## 開発・支援に関する環境配慮の歴史と今後

島津康男

**開発・支援と環境配慮** ここで、「開発」とは工業基地や都市施設、道路、ダム、港湾、鉄道、空港などの社会的インフラの建設事業を指し、主に土地利用形態の大きな変化を指すものに限定する。又、「支援」とは他国に対するこれらの事業への資金的・技術的援助を指すものとする。「環境配慮」という言葉がはっきり使われているのは、ODA 援助事業に対する JICA の環境社会配慮ガイドライン」であるが、ここでは「環境配慮」と「社会配慮」が一体のものと扱われている。環境を狭く解釈しても大気・水などの物理環境、生物・景観などの自然環境と（地域）社会環境とがあり、ここではこれらをあわせて「環境」とよぶことにする。従って、タイトルは「開発支援」でなく「開発・支援」である。

**公害から環境へ、アセスメントから合意形成へ** 「環境」という言葉が現在の形で周知されたのは、1972 年の「環境庁」発足であろう。しかし、その当時は「環境問題 = 公害問題」だった。四日市の旧海軍燃料廠跡地の石油化学コンビナートからの排煙による「四日市喘息」が問題になったのは 1961 年であり、裁判では住宅地の風上に工業地区をおいたことが主な訴因になった。すなわち、事前の立地選定の誤りを指摘したのである。

新日本窒素肥料会社からの有機水銀排出による水俣病が確認されたのは 1956 年、水俣病として政府が認定したのが 1968 年だった。このように、1960 年代にいわゆる「公害」が顕在化し、1967 年には「公害対策基本法」が制定され、「事後規制から事前配慮へ」が合言葉になっていた。1970 年にアメリカで「国家環境政策法」が制定されたことも環境庁発足の契機であったろうし、1969 年に新全国総合開発計画（いわゆる「日本列島改造法」）が制定され、苫小牧（北海道）・むつ小川原（青森県）・大隈（鹿児島県）と大規模工業開発が表に出てきたこともあろう。これらの開発に共通なのは、白砂青松の海岸を利用することで、遠浅の海岸に港湾を作る技術が開発されたためである。

いずれにしても、1970 年代の初めが「環境配慮」の始まりであり、特に「事前配慮」のための行動の象徴である「環境影響評価（環境アセスメント）」に、私は 1960 年代の終わりから携わってきた。なお、「環境配慮」は開発の足を引っ張るものとして、特に企業に嫌われ、このため環境影響評価の法制化は長く店ざらしになった。これは今の発展途上国でも同じである。以上の 40 年の経験から、「環境配慮」の変遷を私の関係した事例をたどりながら示し、今後を考える。今年環境影響評価法の改定が行われ、計画の初期から環境配慮を行う「戦略的環境アセスメント」の導入が本格化するのので、これとのつながりを特に考えたい。

日本の環境配慮の歴史は、点源公害（工場）から面源公害（都市）への変遷、公害から自然保護そして自然環境保全への変遷、そして「結論ありき（アセスメント）」から「市民参加による合意形成」への変遷である。又、国際的な環境アセスメント機関

や韓国・台湾・中国での環境アセスメントにも長く関わってきたので、日本との違いについても触れたい。

## 扱う事例の候補（受講希望者の希望を聞いて、以下の中から選ぶ）

### 初期の事例

むつ小川原工業基地（1977） 公害だけを扱い、白砂青松の海岸の自然への無配慮

新むつ小川原（2007） 30年前の計画がダメだったので、同じ場所でやり直しは珍しい アセスのやり方の変遷がわかる

矢作川方式（1974） 環境の現場監督方式（住民参加型計画のハシリ）

点源（工場）公害から面源（都市）公害への変遷

名古屋都市高速環状二号線（1981） 騒音基準を変えさせた

公害から自然環境保全への変遷 市民参加のはじまり

藤前干潟（1998） 渡り鳥問題で計画撤回 インターネットによる市民の情報交換のハシリ

中部国際空港（1999） 関西空港との比較、公開の実機飛行で計画修正

愛知万博（2002） オオタカで大幅計画変更 市民参加の典型

### 最近のホットな事例

大戸川ダム（1992） 環境アセスメントをしたが、最近計画凍結 流域委員会

東京外郭環状線（2003） PI方式による市民参加第一号として国交省の目玉

普天間飛行場代替施設（2009） 進行中、沖合・沿岸の立地代替案の問題、

ジュゴン問題

### 韓国

栄山江河口堰（1984） 韓国での環境アセスメント第一号 アメリカ型  
河口堰の位置を上流に これ以来、韓国は干拓大国になった

初華干拓（1987） 水質悪化で失敗し閘門を開放、干満差 9m を利用して潮力発電所に変更 諫早干拓との比較

新万金干拓 進行中 33km の潮受堤という巨大干拓 ここは、昔日本が百済を助けにいて負けた白村江のある所 又、日本統治時代に韓国最大の米作地を造った万金堤地区の沖だし

仁川国際空港（1991） 同じ人工島空港の中部空港建設と平行し比較研究が可能  
7kmの連絡橋は日本の企業参入第一号 滑走路3本で関西空港の10倍 乗り換え客ロビーの方が広い アクセス鉄道の開通に6年かかったのはなぜ 国境に近いので、ミサイル基地に守られている

清溪川復元（2003） 現大統領のソウル市長時代の公約で、都心の高架道路を撤去し、もとの河川に復元、ヒートアイランドと堆積物の歴史、露天商の反対運動  
現代建設出身の大統領は、公共事業大好きで、ソウル

- 釜山間の運河、4代河川の大改修などを打ち出す

台湾

雪山ダム (1989) 国立公園第一号の中で、簡易アセスメントで撤回  
実は山中に分散居住している旧国民軍兵士の失業対策事  
業 もし出来ていたらその後の台中地震でどうなってい  
たか

中国

西安高速道路 (1987) 国賓接待用 文化財が評価対象 おかげで名古屋と  
の直行便

### 参考文献

- 島津康男 (1997) 市民からの環境アセスメント NHK ブックス  
島津康男 (2007) 島津奔る  
3 環境の現場監督はじまる 5 アセスの審査と裁判  
8 韓国との付き合い 9 台湾・中国との付き合い  
10 「核の冬」など 11 市民からの環境  
鄭銀淑 (2005) 韓国の「昭和」を歩く 祥伝社  
鄭雲鉉 (1999) ソウルに刻まれた日本 桐書房

どんな事例に興味があるか、事前に意見を聞いていただけるとありがたい